



「拡大熟議」の実施

「地域とともにある特別支援学校～児童生徒・保護者が安心して地域で暮らすために～」

についての 意見交換

今年度の第2回学校運営協議会は、学校運営協議会委員の皆様に加え、本校 PTA 役員、そして本校全教職員が参加した意見交換（いわゆる「拡大熟議」）を行いました。関係機関職員同士による意見交換を初めて大きな規模で実施することができ、今後の取組の手掛かりや方向性を多く見出すことができました。

その後、学校の所在地である下野市の防災対策について下野市安全安心課職員を講師にお迎えし、御講話いただきました。本校の防災安全の取組や地域生活の充実を地域全体の安全安心という、より俯瞰的な視点から見つめ、考える貴重な機会となりました。

主な内容

- 1 意見交換 「拡大熟議」
- 2 講話：「障がい者に対する防災対策」
講師：下野市安全安心課職員
- 3 質疑応答



2 講話

【テーマ】下野市の「障がい者に対する防災対策」

講師：下野市安全安心課 危機管理グループ職員

本日の講話内容

- ▶ 1. 下野市において被害を受けた主な災害
- ▶ 2. 市の防災対策
- ▶ 3. 災害発生時の市の初動態勢
- ▶ 4. 福祉避難所について
- ▶ 5. 避難行動要支援者について
- ▶ 6. 特別支援学校を福祉避難所に指定する取組
- ▶ 7. 最後に...

ハザードマップについて

住民の被害を最小限に抑えることを目的に下野市で作成

ハザードマップで確認してほしいこと

- ▶ 浸水想定区域
台風や豪雨などで洪水による浸水が予想される地域
- ▶ 浸水の深さ（最大浸水深）
洪水が実際に発生した場合に予想される浸水の深さ
- ▶ 浸水継続時間
浸水の深さが50cmを超えてから下回るまでの時間
- ▶ 避難所の場所



【質問】

避難所での合理的配慮の提供や必要サポートについて

【回答】 下野市安全安心課 危機管理グループ職員

避難所での対応は、まず現場の職員が判断し、対応が困難な場合は災害対策本部へ報告され、福祉避難所の開設や民間サービスの活用が検討されます。現場ではパーティションなどを活用し、個別の配慮が可能な体制が整えられます。

避難所運営においては、他の利用者との調整も必要であり、職員が間に入り説明や対応を行います。避難生活が長期化する場合、避難者自身による運営体制が構築され、地域の話し合いによりルールが決定されます。

1 意見交換「拡大熟議」

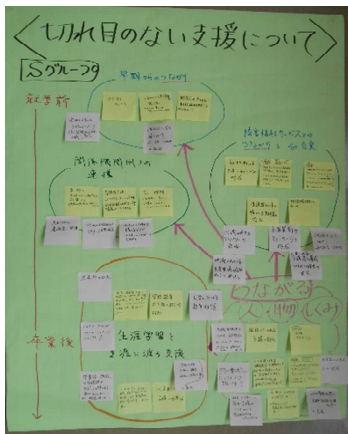
意見交換：「地域とともにある特別支援学校」

～児童生徒・保護者が安心して地域で暮らすために～ について

【概要】 下記のメンバー構成による 5～6名を一つのグループとし、下記テーマの一つについて意見交換を行った。19グループが各教室に分かれて熟議を行い、最終的にテーマごとに代表グループが、リモートで発表を行い、全体での共有を行った。

テーマ	①「防災教育」について ②「地域連携」について ③「切れ目のない支援」について	【補足】左記の三つのテーマは、昨年度の学校運営協議会の「熟議」内容や今年度の学校の重点目標を踏まえて設定。
メンバー	学校運営協議会委員 本校 PTA 役員 本校教職員	

①自己紹介	5分	・手短かに自己紹介しあう。
②付せんの記入	10分	・テーマに対する意見を書く。 ・付せん(クリーム)1枚につき1つの意見にする。
③意見等紹介	12分	・一人ひとり、付せんに書いた内容を発表し、台紙に貼る。 ・1回の発言で1つの意見にするなど、説明を簡潔にする。
④仲間分け	5分	・類似の内容ごとに付せんを仲間分けし、台紙上に貼りなおす。
⑤見出し記入	5分	・仲間分けした内容ごとに見出しを考え、台紙に書く。
⑥話し合い	13分	・解決策を話し合い、付せん(ピンク)にまとめて台紙に貼る。
⑦評価・ふりかえり	5分	・見出しごとに整理した内容を基に話し合い、ワークシートにまとめる(班ごとに1枚)。
⑧発表・まとめ	10分	・代表の方がワークシートを基に発表する



活 発 な 熟 議
～子どもの今と未来の充実に向け～



1 時間という限られた時間での熟議でしたが、どのグループも活発な意見交換があり、充実した内容となりました。熟議を通して関係機関職員同士の距離が近付き、意見のやりとりや発表により互いの考えや思いを知り、そして現状や課題の共通理解、さらに情報やアイデアの共有につながったように思いました。本日の取組をもとに、今後、関係機関で歩調を合わせ、役割分担を行いながら、「子どもたちの今と未来の充実」に向けて協働して取組を進めていきたいと思ひます。